

# コルザ

2012  
2・3 月号  
No. 327



コルザはフランス語で「菜の花」。組合員がつくる生活クラブ虹の街の機関紙です。

今月の食卓

## 中国はるさめ 国産に負けない情報開示

特集

## エッコロ福祉基金助成報告

活動ファイル

- エコライフのつどい
- さようなら原発 1000 万人アクション
- モニターメール / 理事会・組織報告 / 編集後記
- 野菜で元気クラブ 安全農産物普及会
- クラちゃんラブちゃん すし酢 1 本使いきる!

本部 043・278・7671/ センター柏 04・7134・3801/ センター千葉 043・278・7629/ センター佐倉 043・461・7868/  
センター松戸 047・385・4646/ センター市原 0436・60・1583/ センターベイ 047・379・1540/ デポー真砂 043・278・0112/  
デポーみつわ台 043・287・2414/ デポー新松戸 047・348・1210/ デポー大津ヶ丘 04・7191・7359/  
デポー松葉町 04・7134・0697/ デポー浦安 047・353・0135/ デポー木刈 0476・40・6811/ デポー園生 043・290・0090/



中国はるさめ

We・I 50g × 5 / 268 円  
 デポーフロア 50g × 5 / 278 円  
 (価格は税込)



国産や地産地消をすすめている生活クラブ。でも、はるさめはなぜ中国産なの？と疑問に思う組合員もいるかもしれません。埼玉県川口市にある藤原食品(株)で、その答えを聞いてきました。

はるさめは豆からつくられる

「生活クラブの中国はるさめの原料は、緑豆という直径4〜5mmほどの豆です。これ



契約農家の一人 周占軍さん

を発芽させたものが、『緑豆もやし』です」と、代表取締役社長の藤原拓人さん。緑豆の主な産地は中国。もやしのもとになる豆も、ほぼ100%が中国からの輸入です。消費材のはるさめは、遼寧省阜新県蘇州鎮の契約農家が栽培した緑豆を使っています。同じ畑で緑豆をつくり続けると病虫害が出るため、1年ごとに栽培する作物をとうもろこし、落花生と変えています(輪作)。北海道の登別市と同じくらいの緯度ですが寒さが厳しく、冬は水点下30℃以下になるため、栽培時の農薬がほとんど必要ありません。やむなく使わなければならない事態が発生したときには、日本で定められた農薬で、使用する量と時期を守ったうえで、使用前に商社を通して藤原食品に連絡します。

一方、一般の緑豆農家では4月から6月の地面の氷が溶け、急激に暖かくなる時期に殺虫剤を使っているところもあります。

春の雨が降る(1)〜

契約農家で収穫された緑豆は、専用の車で山東省龍口市にある龍口昌世食品有限公司(はるさめの製造工場)に運ばれ、他の緑豆と混ざらないよう分別保管されます。

① 緑豆を水に浸してふやかし、臼で挽いて豆乳にします。豆乳を発酵させて、上澄み液とでんぷんに分けます。

② 遠心分離器で余分な水を抜き、でんぷんを倉庫で寝かせ、程よい水分量にします。

③ 機械で細い麺状に押し出し、熱湯の中に落とします。その

ようすが雨の降るようなので、はるさめと呼ばれるようになったと言われています。

④ できた麺を冷水にくぐらせ、なじませます。

⑤ 50gずつ分けて型に入れ、マイナス10〜15℃で凍結させます。

⑥ 最後に半日ほど天日乾燥します。自然の風や日光に当てることで光沢とコシのあるはるさめに仕上がります(表紙写真)。

工場のある龍口市は水のアルカリ度が高く、透明度の高いはるさめができます。不純物の混入もないので、漂白の

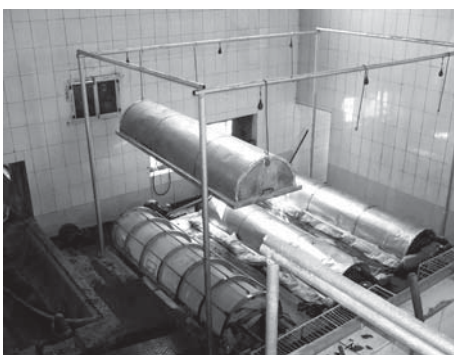
必要ありません。

市販品とはここが違う

「緑豆の栽培から製造工程までのすべてが追えるようになってきているのが、市販品の一番大きな違いです」と藤原さん。

藤原食品が中国はるさめで生活クラブと提携するようになったのは1978年。当時は中国でつくられたものを買付け、消費材として出していました。

02年に中国がWTOに加盟した頃から、国営企業が民間となり、これまでできなかった工場の情報開示や栽培者限定などができる環境が整いました。組合員からの要望もあり、栽培農家から組合員までのつながりが全てわかる消費材づくりをしなければという



臼で挽いて豆乳にする

### 教えて！藤原さん 国産の はるさめはつくれるの？



「純国産をうたったはるさめはありますが、包材の裏側をよく見てください。国産原料でつくったはるさめで、緑豆100%のものは無いはず。たいていは緑豆以外の豆か、ジャガイモなどのでんぷんを使っているのです。他のでんぷんを混ぜることで価格も安くなります。

緑豆以外のでんぷんでつくと、はるさめ独特のコシが弱くなり、長く煮込むとちぎれやすくなります。本来のはるさめは、緑豆100%でこそつくれるものなのです。

国内で緑豆を作付けしているところも少しはありますが、本来広大な農地が必要な作物で、日本の気候風土に合わないせいか、収穫量はとても少ないのです。もし、国産の緑豆ではるさめをつくろうとすれば、今の価格よりもずいぶん割高なものになってしまいます。」

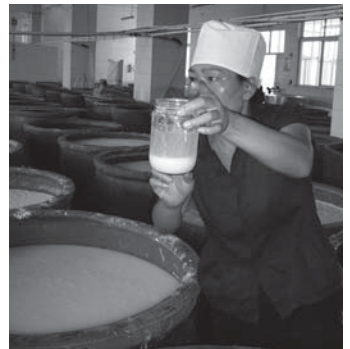
思いから、国産に負けない情報開示をすすめました。「現在は、緑豆を生産する農家を限定し、生産した緑豆を全て買い取って工場に運び、緑豆でんぷんをつくることからはるさめに加工するまでを一つの工場で行っています。この流れを全て開示しているのは、おそらく生活クラブの中国はるさめだけです」と藤原さん。一般的なのはるさめは原料のでんぷんをでんぷん製造工場から購入してつくるので、全て明らかにすることが難しいのです。

(発がん性の疑われる添加物)が残存していたことが問題になり、はるさめの輸入がストップしたことがありました。しかし生活クラブのものは原材料の履歴がトレース(なぞる・追跡する)できるので、今まで供給が止まったことはありません。

### 生活クラブの考え方が広がって

「年間約20万個を供給していますが、そのうち1〜2個に豆の皮の混入があり、クリームとしてきます。元々原料の一部なので食べる上で問題は無いのですが、これをな

くせるよう気をつけています。また福島の原因事故以降、日本から中国に送る物には放射線検査と書類審査が必須となりました。今まで包材用の無添加追及フィルムを送っていたのですが、手続きをしていると消費材が日本に届くまで半年以上かかってしまうため、やむなく無添加追及フィルムの使用をあきらめました」それでも何とか生活クラブの基準に合ったものをつくり続けたいと思っていると藤原さん。「藤原食品が扱っているのははるさめのほかにも天津甘栗、きくらげ、ザーサイなど、日本でもよく食べられるが国内ではとれない、とれても非常に量が少ない素材を使ったものです。生活クラブの考え方に賛同した中国の生産者と協力して、原材料や製造工程を明らかにしてきました。自信を持って生活クラブの消費材としてお届けしています」という言葉にも力がこもります。国や文化は違えど、私たちの「安心安全なものを食べたい」という思いに共感してくれる人がいるということは心強い限り。これからもこのつながりを大切に、さらに広げていきたいですね。(岩崎明子)



袋に入れ倉庫で寝かせる

上澄み液とでんぷんに分ける

機械で押し出し麺状にする

## 生産者メッセージ



藤原食品株式会社  
代表取締役社長  
藤原 弘人

生活クラブで中国産品、と不思議に思われる方は多いと思います。藤原食品が中国はるさめを生活クラブに供給するようになったのは1978年。80年にはザーサイや天津甘栗が加わりましたが、トレスなどなく、ただ中国でつくられたものを買い付けているという状態でした。

生活クラブの自主管理監査に後押しされ、組合員の熱意から一つ一つ情報開示への取り組みを始めました。現在では、09年の天津甘栗・むき栗などの点検を最後に当社と商社、各会社ですすめていた消費材の全ての点検を生活クラブ連合会から受け、栽培から製品までの全ての状況を開示できるようになっています。原料の出所まで全て開示しているはるさめは、おそらく消費材の中国はるさめだけだと思いません。

当社が供給している消費材の品目は多くありませんが、どれも自信を持って生活クラブ消費材と言えます。消費材のすばらしさは、年間計画で決めた供給量を産地にフィードバックし、計画に基づき生産した消費材が利用結集されることでそのまま契約栽培者に還元できることです。

全てを開示した消費材をつくり続けてもらうには、栽培している農家、工場の理解が必要になれば立ちません。毎年同じ生産者から確実に調達していくために、食べ続けていくことが信頼関係となり、品質の向上につながっていきます。これからもお互いの信頼関係を元に、良い消費材づくりをしていきます。是非食べ続けていただきたいと思います。

### はるさめとザーサイのスープ

#### 材料 (3~4人分)

中国はるさめ 50g ザーサイ 30g きくらげ (もどしたもの) 3~4枚 ポークウインナー 2本 水カップ 4 長ねぎ適量 とりがらだし粉末 2包 根生姜の搾り汁 小さじ 2

#### 作り方

- ①鍋に湯を沸かし、とりがらだしを溶かします。
- ②戻したはるさめときくらげを適当な大きさに切り、千切りにしたザーサイ、薄切りにしたウインナーを①に入れ、煮込みます。
- ③根生姜の搾り汁を②に加え、塩気が足りなければ塩を加えます。
- ④火を止め器に盛りつけ、長ねぎのみじん切りを散らします。

### 揚げはるさめのサラダ

#### 材料 (2~3人分)

中国はるさめ 50g 水菜 1/2束 鶏肉ムネ 1/2枚 酒大さじ 1 すりごま白 ポン酢しょうゆ (ゆず) ごま辛味オイル なたね油 各適量

#### 作り方

- ①水菜は2cm幅に切ります。
- ②はるさめはハサミで2cm幅に切り、油で揚げます (170℃で3~4秒)。
- ③鶏肉は耐熱皿に入れ、酒をふりかけラップをしてレンジで3~4分加熱します。ラップをしたまま冷まし、手で細かく裂きます。
- ④①と②を合わせて皿に盛り、鶏肉をのせた上にすりごまを散らします。ポン酢とごま辛味オイルをかけます。

はるさめでヘルシーに

# エコロ福祉基金助成報告



エコロは「たすけあい」

エコロ制度は多くの組合員の参加によりつくられた大きなたすけあいの輪です。そのなかのエッコロ福祉基金は組合員が暮らす地域の福祉活動が充実することで、より暮らしやすくなることをめざしています。毎月100円の掛け金のうち、約25円がこの基金に使われています。

エコロ福祉基金には、高齢者支援・障がい者支援・次世代育成支援活動をする団体を公募する一般助成と、その年の地域づくりの方針に沿った事業に助成する特別助成があります。

一般助成事業実施期間の変更に伴い、ここでは2010年度に一般助成が決定した団体の2011年に実施した事業報告と、2010年度に特別助成を受けた団体の近況に

ついて報告します。

助成額の上限を30万円に

助成団体の募集は、『なないろえんぴつ』に記事を掲載したり、支部組合員が中心となつてリーフレットを公共施設等に配布したり、船橋市ホームページの市民活動情報掲示板にも載せるなど広報も強化しました。また、地域の団体にも呼び掛けを行いました。

応募要項の見直しも行いました。一般助成額は1件に対する上限を30万円に変更、期間についても翌年の1月1日から12月31日までに実施される事業を対象にすると変更し、この助成制度がより利用しやすくなるようにしました。

選考方法は、まずエコロ福祉基金審査委員による一次審査を行い、それを通過した団体に対して組合員投票を行います。出資者である組合員が地域で活躍する団体を知り、応援することが目的です。対象団体が絞られることで組合員の投票結果が、直接最終審査に反映されることになりました。

2011年度エコロ福祉基金  
審査委員長 福住洋美

## 2010年度エコロ福祉基金 エコロ福祉委員と審査委員会メンバー

### エコロ福祉委員

- 東葛ブロック 高岸美詠子
- 京葉ブロック 飯沼菜津子
- 下総ブロック 辻純子
- 上総ブロック 井上あかり

### 審査委員会メンバー

#### ブロック選出

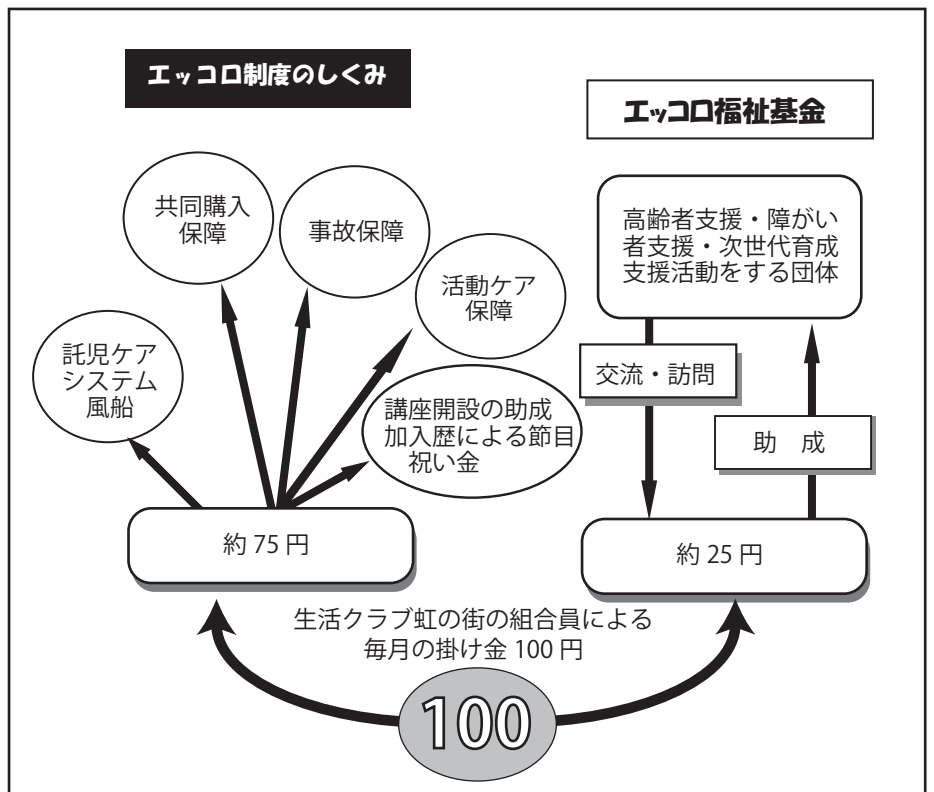
- 東葛ブロック 福住洋美
- 京葉ブロック 尾花直子
- 下総ブロック 長南弓枝
- 上総ブロック 五十嵐紀子

#### 理事会選出

- 柿沼直美 稲田玲子 桐座真住
- 並木道代 今田千代子 岩上章子

### 事務局

- 組合員事務局 雨宮明子
- 組織部 染谷裕行 菊地健太郎



## このような活動に使われました。



### NPO法人ねむの里

#### 洋菓子を焼くオープン購入

(助成額15万円)

お菓子工房ねむの里では、障がいのある若者やボランティアの人がマドレーヌを始めとしておいしい洋菓子をつくっています。イベント前など、たくさん焼く日はオープンもフル回転ですが、今までは台数が少なく効率よく作業がすすまず、予定の数焼けないことがありました。助成金でオープンを購入できたので、仕事の流れがとても円滑になり、一日に製作する洋菓子の量を格段に増やすことができました。メンバーもいきいきと仕事をしています。できあがったお菓子は、ねむの花をペイントした販売車に乗った、笑顔いっぱい若者たちが、地域の皆さまにお届けしています。

### 図書館大好き人間の集まり(理療勉強会)

#### 周辺機器と教科書補助

(助成額10万円)

当会は柏市で、視覚障がい者のための音声図書づくりを行っています。医療用図書をつくる人員を増やすプロジェクトに助成金を使用しました。パソコンは自分で用意してもらい、必要な機器と今までは全部自費だった教科書(解剖学)の補助費になりました。本は自己負担が2000円で済んだので、新しい人の参加が5、6人ありました。パソコンの勉強会、解剖学の勉強会、医学雑誌の編集、東洋医学の研修会を定期的に実施しています。今年度中には現メンバーがデジタルに精通する予定です。



### 我孫子朗読の会

#### 音訳奉仕用機材の拡充

(助成額10万円)

我孫子朗読の会は、市内の視覚障がい者に音訳サービスを行っています。公共情報や新聞・雑誌の抜粋などをグループで録音し、個人宅で単行本の音訳録音を行っています。ここ数年、情報のデジタル化に対応し、録音媒体をカセットテープからCDへ移行をすすめてきました。今回助成を得て、パソコン録音に必須のオーディオインターフェイスとCD郵送用封筒を補充しました。おかげさまで、会員のデジタル録音・編集の技術がすすみ、多くの方に検索可能でコンパクトなCDを郵送できるようにになりました。13年までにテープからCDへ完全移行できるようなっています。



### 2010年度 エコロ福祉基金一般助成 募集から助成決定まで

2010年4月 「福祉基金一般助成の進め方」 理事会承認

6～8月 募集 20団体応募

9～10月 訪問調査活動

各ブロックで分担し、支部組合員が中心となって行いました。組合員が各団体を直接訪問することで、活動への熱い思いや活動のようすを、詳しく聞くことができました。また、同じ地域で活動する者同士の交流の場にもなり、調査活動の大切さを改めて実感しました。

11月12日 第一次審査

団体の調査報告を、エコロ福祉委員が報告しました。10年度の審査会は09年度のエッコロ福祉委員を基本としたブロック選出と理事会選出の合計10人で構成され、活発な質疑応答や意見交換が行われました。

集計の結果、応募20団体のうち15団体が一次審査を通過しました。

## 2010年度に決定した一般助成は11団体



### NPO法人スペースぴあ

#### 古書販売のための機器購入

(助成額30万円)

スペースぴあは、精神障がいのある方に豊かな日中活動の空間を提供していくことをめざし、疾病の為に身につけることが叶わなかった就労に必要なさまざまな社会的訓練を、インターネットによる古書販売等の作業を通じて行っています。仲間と共に己を研きながら、自らの弱さに向き合い、回復(回復)をめざします。この一年間で2000冊を超える古書をアマゾンに出品し、おかげさまで毎月100冊以上を売り上げる水準に達しました。助成金で、使いやすいパソコンやデジカメ等の周辺機器を購入できました。生活クラブには古書の収集にもご協力いただきました。今後はこのようなシステムの構築もめざしています。

### NPO法人千葉精神保健福祉ネット・ハウス里見

#### ベランダ屋根の交換工事とテレビ購入

(助成額25万円)

NPO法人千葉精神保健福祉ネット(通称Mネット)は、障がい者、高齢者が暮らしやすい街の実現をめざし、ホームヘルプサービスや一時介護サービス、退院支援や退院に向けた実際の場での生活指導モデルを提供しています。ハウス里見は、築40年の貸家の2階。ベランダは、洗濯物干し兼休憩所として利用者の憩いのスペースとなっています。今回の助成金で屋根の波板交換の工事をしました。半透明の屋根になったので陽射しが差し込み、冬でも暖かなうれしい場所となりました。また、地上デジタルテレビも購入し各部屋に置くことで利用者の余暇の楽しみが増え、より充実した生活が送れるようになりました。



同型のテレビを購入



### 「日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンス」実行委員会

#### 外国人生徒への進学情報提供

(助成額30万円)

松戸市民会館・船橋中央公民館・千葉大学の3会場にて、日本語を母語としない中学生とその保護者を対象に、高校進学について情報提供を行いました。合わせて、中学生85人、保護者57人、付き添い17人が参加しました。行政の担当者も29人が見学に訪れました。事業を支えるスタッフや教員も211人を数えました。助成金は、資料翻訳・通訳やOBへの謝礼、スタッフ・教員の交通費補助、各教育委員会・国際交流協会への後援依頼等に活用しました。参加者から、「母語による説明がとても参考になり、希望が持てました」と感謝の言葉が寄せられました。

### 12月 組合員投票

第一次通過団体を対象に行った組合員投票は546人が投票。自分の住んでいる地域の団体を応援する人や活動内容に共感した人からのたくさん温かいメッセージを各団体に届けました。受け取った団体の皆さんも大変喜んでいました。

### 2011年1月15日 公開プレゼンテーションと最終審査

15団体34人が参加しました。各団体の持ち時間は5分。一般組合員にも公開されたなか、写真やパネルを使い熱のこもった発表でした。その後、質疑応答。そして、生活クラブ虹の街と生活クラブ千葉グループ団体である特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)からアピールタイムも持ちました。公開プレゼンテーション後に行った最終審査の結果、10年度は11団体への助成が決定しました。

### 1月 「2010年度エコロ福祉基金一般助成」理事会承認

エコロ福祉基金によるたすけあいの輪が広がっています。2011年度エコロ福祉基金審査委員長 福住洋美

**NPO法人全国要約筆記  
問題研究会千葉支部**

**要約筆記講師養成**

(助成額15万円)

助成金で、人生の途中で聞こえなくなったり、聞こえづらくなった方のコミュニケーション手段の一つである要約筆記を担う、要約筆記奉仕員養成講座の講師養成(基礎、応用の全12回)を行いました。前年度は、準備等の費用や交通費を実費では出せず、講師をはじめ関係者にも負担をお願いしていました。今回は助成金でその半額を補填することができました。今後は、講師陣の学習・研修を重ねていき、県内で行われる要約筆記奉仕員養成講座等で活動を広げ、聞こえのバリアフリーをすすめていきたいと思っています。



**NPO法人ワーカーズ  
コレクティブ 風車**

**組織運営の研修**

(助成額15万円)

不登校ひきこもりの親の会から、ワーカーズコレクティブ風車は生まれました。助成金で、さまざまな居場所の主宰者(「たまりば」の西野さん、「コミュニティ」の山下さん、「コムニタスフォロ」の山下さん、「木よりの家」の中邨さん、「クッキングハウス」の松浦さん)を講師に研修を行い、組織運営についての問題を整理できました。トラブルの背景について理解し、スキルアップにつながりました。また具体的な対応について考えられるようになり、メンバーのモチベーションが上がって、仕事を分担できるようになりました。その結果今年から地域活動支援センター\*として新たな体制で運営して行けることになり、当事者や親も参加し、居場所・相談事業を継続していきます。

**\*地域活動支援センター**

障害者自立支援法に基づいた地域生活支援事業の一つ。実施主体は原則市町村で事業者はNPO法人など。通所の障がい者らに対し創作的活動または生産活動の機会の提言などを行います。



風車はリユース食器のレンタルも行っていきます

**千葉朗読奉仕の会  
せせらぎ**

**CDコピー機を購入**  
(助成額10万円)

千葉朗読奉仕の会せせらぎは、視覚障がい者のための音訳図書などを製作しています。また図書館や病院などで読み聞かせ、対面朗読も行っていきます。今回の助成金を受け、念願だったCDコピー機を購入することができましたので、依頼図書をCD化することが可能となりました。昨年10月から早速音訳した図書を、CDにコピーして利用者にお渡ししています。現在32冊を音訳中です。CDコピー機は大活躍です。

**流山朗読グループ**

**初心者朗読講習会の開催**

(助成額10万円)

当グループは行政からの広報や文芸作品の音訳、対面朗読の活動をしています。デジタル録音技術は、会員の全てが初心者で早急な技術習得が必要なため、助成金を使って講師を依頼し9月から延べ7日間の講習会を実施しました。デジタル録音機を使っての録音技術や、パソコンに取り込み編集校正を加えてCD版に仕上げる方法を習得しました。代表して受講した8人は、全員に勉強会を開いて目下猛練習中です。念願のデジタル録音の準備ができました。



## 特別助成は2団体



「たあ〜たん」の託児のようす

**NPO法人VAICコミュニティケア研究所**  
**地域福祉に貢献**  
 (助成額470万円)

VAICコミュニティケア研究所は「だれもが自分らしく安心して暮らせる地域協同社会づくりに貢献する」ことをめざしています。11年6月には本部が

稲毛区園生町に移転し、園生をモデル地域とした地域コミュニティの再生に向けた取り組みを始めました。理由を問わない子どもの一時的預かり「たあ〜たん」や、地域交流の場「あみいこ」を9月よりスタートしています。あみいこは地域の人たちが出会う場としての縁側サロンなどを定例で開催し、そこから参加者同士の交流が生まれてきています。12年春には、住み慣れた地域でその人らしい暮らしを応援するためのインフォーマルサービス事業として、見守りサービス「アウル」と、生活支援サービス「ボンス」を展開する予定です。助成金は新たな事業の準備をはじめとしてNPO法人経営全体に充てさせていただきます。今後地域福祉推進の担い手として多様な事業に取り組んでいきたいと思えます。



左から店長の中野健志さん、小林さん、高島さん、角越さん

**生活クラブ虹の街の障がい者就労支援事業**  
 (助成額300万円)

昨年11月、当店はおかげさまで7年目を迎えました。障がいのある3人のスタッフは今日も変わりなく元気に日々の業務をこなしています。小林史明さんは、パンの袋詰めや製造

の補助の仕事をしています。毎週欠かさず書いているセットパンニュースの「今週の小林さん」は好評で、楽しみにしているとゆう声がたくさん。一昨年のブロック祭りでは、多くの方に声をかけていただき、改めて柏店の顔だと感じました。製造の角越大祐さんは、パンの成型や、お風に出すコロッケパンを担当。揚げるところから陳列するまでを一人で行います。焼き立ての切りづらいパンを慎重に切る横顔は正に職人です。販売の高島有紀乃さんは焼き立てパンを陳列するのが仕事。大きく元気な声でパンが焼き上がったことをお客様にアピールします。洗いものやチラシの整理、イトインコーナーの片付けも一生懸命こなしています。助成により、障がい者の持続的な就労の場を支えていただけています。



**劇団 人の森ケチャップ**  
**第8回演劇自主公演の実施**  
 (助成額30万円)

劇団では毎年「障がい者と健よう者が一緒につくる・みる・あつまる舞台づくり」をコンセプトに、オリジナル作品による

自主公演を行なっています。助成金は公演に伴う劇場費、宣伝広告費として活用しました。劇場や設備を使用するためには多額の費用が必要で、劇団員たちが負担し合い毎回資金繰りに頭を悩ませています。今回は助成金を活用することで芝居づくり

により集中して取り組むことができました。また宣伝広告活動は、演劇自体に馴染みがない方も多くなか、より広い地域の多くのお客様にお知らせできました。多くの方のご支援により10月23日に自主公演を開催、無事に終えることができました。

活動ファイル

エコライフのつどい

昨年で6年目となったグリーンシステムキャンペーン。そのまとめの会として11月2日に新宿文化センターでエコライフのつどいが開催されました。



第1部は、もったいない学会会長、石井吉徳さん(東京大学名誉教授)の講演「石油ピークと3.11後の

持続可能な社会を考える」。かなり多方面にわたる話で専門的な用語が多く、なかなか理解するのが難しい内容でしたが、資源循環型社会の構築に向けて人間は価値観の転換を求められているということがよくわかりました。

「すでに2005年には石油の産出量はピークを迎えており、今の石油依存文化は今後廃れて行く一方であること、地球は有限であり資源は量より質が大事である」ということ。また、石油に代わる新しい物質としてメタンハイドレート\*が世の中でもはやされているが、採取方法の課題や経費がかさむなど現実的なものではなく、有用物質とはなりえないという話もありました。

TPP問題にも触れ、「日本でアメリカのような大規模な工業的農業はできるはずがないので、絶対に参加すべきではない」と力説されたのが印象的でした。

3.11後の社会づくりに向けての提

\*メタンハイドレート

メタンを中心に周囲を水分子が囲んだ氷状の結晶で、大陸周辺の海底に分布。石油や石炭に比べ燃焼時の二酸化炭素排出量が約半分であるため、地球温暖化対策としても有効とされるが賛否両論があり、化石燃料の一種であるため、再生可能エネルギーには含まれません。

言として「脱石油・脱原発の社会づくり」「自然共存」「地方分散」「海岸線の長さ(世界第6位)を生かす」「脱グローバルズム」「効率優先の見直し」「リデュース・リユース・リサイクルの順番を重視した3R」というキーワードを提示され、「国内総生産(GDP)の成長より、心豊かに、もったいないと思うことや、ほどほどにという気持ちを大切に、人の絆を重んずる社会の構築が重要」という言葉で締めくくられました。

第2部は、キャンペーン中のRびん回収率の上位単協から神奈川、山形、北海道の組合員と、Rびんの消費材を扱っている生産者タイヘイ(株)の伊橋弘二さん、コーミ(株)の牧戸正博さんの5人でのパネルディスカッションが行われました。



組合員からは、今回のキャンペーンで特に際立った活動をしたわけではなく、これまでの地道な活動の継続と「会って話す、伝える」ことが何より大事だという活動の報告がされました。

生産者は、洗いびんを使用するには検査の人員も余計に必要で、手間も経費もかかること、回収率が悪くかなりの量の新しいびんを投入していること、ユニバーサルデザイン350mlびんに切り替わってからは口の欠けが増えたこと等の報告がありました。

今後、私たちはもっと資源循環型社会に向けた意識改革が必要で、グリーンシステムはその実践をモデルとして社会に提示しているものです。よりRびんを普及させるために、私たち使う側も気をつけなければなりません。傷をつけないよう丁寧に扱うこと(金属



製のヘラなどは使わない)、使い終わったら必ず返却することに努めましょう。

環境担当理事 小畑聖子

組合員の思いを一つに  
～国を動かそう～さようなら原発  
1000万人アクション署名活動

生活クラブ虹の街では、組合員1人1筆として、35000筆を目標に署名活動を行ってきました。各ブロックでは、子どもたちを守り生きていく未来に夢と希望をつなぎたいという組合員が中心となって、幼稚園の門の前や駅前、自治体の消費生活展等の場所で署名活動を行い、脱原発や自然エネルギー中心の社会への共感の輪を広げました。ホットスポットとよばれている地域は特に、脱原発への意識が高まっています。まずは、震災後1年となる3月11日をめざして、身近なところから、最後まであきらめないで脱原発を訴えましょう。

環境担当理事 井田貴子



署名活動は昨年9月から2月17日まで行われ、1月31日現在、23079筆の署名が集まっています。



コルザモニターから届いた意見・感想を掲載します。

12・1月号を読んで

コーミ(株)のトマトケチャップ大好きです。さらっとしていながら濃厚でピザソースとしても使っています。スーパーで売っているトマトケチャップの原料のほとんどが輸入と知って驚きました。輸入の自由化で海外から安いトマトがどんどん入ってきて信じられないほど安いケチャップができるのですね。トマトの学校はとてすばらしい運動だと思います。私も消費によって微力ながら協力していきたいです。TPP参加によって今後輸入食材は増加していきます。生活クラブの運動で生産者を守り、安心安全な食材を提供し続けていただきたいと思います。(たかなな)

生活クラブの黒豆煮豆は、製造方法が

他メーカーと違う点や、重曹も使わずなぜふっくら、しわが入らないのかがわかりました。加圧加熱殺菌がポイントなのですね。家では真似できない製法です。(さかき)

私はトマトが好きなので子どもの手が離れて援農にいけるようになったら参加します。でも炎天下での作業なので、それまでに体力をつけておかねば…。(ハムハム)

月日が経つにつれ、放射能に対する意識が自分自身低下してきたと感じます。「それってなあに？」を読んで気を引き締めました。(ちょび)

市販の煮豆や佃煮、漬物類は添加物がびっくりするくらい使われていて食べる気がせず、消費材を愛用しています。黒豆煮豆は大好きな消費材の一つです。あっさりした甘さとつやつやふっくらした食感に箸が止まりません。おやつ黒豆も子どもに大人気です。調味料を入れて煮ない！など初めて知りました。煮汁も捨てるのがもったいない…と思っていたら包装の際に充填しなおしてるんですね。これからは心置き

なく利用します。食べ過ぎてしまうので、できればもう少し甘さ控えめでも良いかと思いますが、煮豆らしくなくなっちゃうかなあ。(りすさ)

加工用トマトの産地&加工拠点の記事で、はっとしました。このたびの震災で被災されてこうして紙面に載ったり、供給が止まったりして初めて、どこでつくられていたかを知るんですよ。「国産で安心ねっ！」って消費しているにも関わらず、正直、生産地や生産過程を知らないことを恥ずかしく思いました。こうして少し知るだけでも、明日からのケチャップの味がよりおいしく、よりありがたく感じられるように思います。(ぜんまいざむらい)

黒豆の煮豆は他の煮豆に比べ、つくるのが大変だとは聞いていましたが、こんなに手間がかかっていることに驚きました。今回初めて申し込みましたが粒が大きくふっくらとしてツヤツヤ！程よい甘さで確かに手間がかかった味がしました。家族も義父母もおいしいと喜んで食べてくれました。未熟大豆を茹でたものが枝豆という豆知識も役に立ちました(^O^)(ポデー)

お知らせ

例年『コルザ』に掲載していた総代会と総代選挙のお知らせは、昨年よりコルザが隔月発行となったため、『なないろえんぴつ310号』に掲載します。

12月理事会報告

- 1. 生活クラブの放射能対策について知らせ、仲間づくりをすすめるためのチラシ作成を決定しました。
- 2. 1月から始まるCO・OP共済冬キャンペーンで、年間2440件の目標に向けた実行計画を確認しました。

12月臨時理事会報告

- 1. 現時点での2012年度方針案を決定しました。「千葉方針案ダイジェスト」とし

て加工し組合員全員に配付、1月からの地域集会でも活用し、合意形成をすすめて行きます。  
2. 12月から供給を再開した鶏卵について、組合員が安心して利用できるよう情報を丁寧に伝えていくため、生産者と共に学習会の開催や広報計画をたてることを決定しました。

1月理事会報告

- 1. 東日本大震災復興支援カンパの合計額

- 約2億3100万円の執行状況・計画について連合会の報告を受けました。
- 2. 情報誌なないろえんぴつに連載してきた「生活クラブ虹の街社会的価値レポート」を冊子にまとめ、役員研修や仲間づくりに使用していくことを決定しました。
- 3. 脱原発に向けた活動として、協力団体と共に署名やパレードにおおぜいで参加していくことを確認しました。
- 4. 生活クラブ風車の最終事業計画や稼働に向けた活動について決定しました。

12月組織報告 総供給高 1,006,348,843円 総組合員数 38,864人  
(12月末現在) (We 7,149人 | 17,289人 デポー 11,369人 経済共済 3,057人)

発行 / 生活クラブ虹の街 発行責任者 / 新保ちい子 編集責任 / 情報委員会  
〒261-0011 千葉市美浜区真砂 5-21-12 TEL 043-278-7611 FAX 043-279-7490

★本紙は古紙再生紙を使用しています。http://www.chiba-seikatsclub.coop/



編集後記  
先日田中優さんの講演を聞いた▼「どんな状況でも前向きに生きる人は免疫力が高い」この一言で元気が出た▼田中さんは他にもいろいろな情報を発信している。興味のある方はインターネットで検索してみてください。(は)

生産者いしーし三び   
**野菜で元気クラブ**

安全農産物普及会



小川達也さん

(生産者より) 生活クラブとは1984年から提携を続けています。新都心といわれ

る千葉の幕張からわずか5kmほど内陸にあるささやかな田園風景と住宅団地が同居するなか点在する畑は、典型的な都市近郊型農家です。できるだけ化学農薬、化学肥料に頼らない野菜づくりをめざしています。

(主な作付け品目)

長ねぎ・キャベツ・ほうれん草・小松菜・人参・キウイフルーツ

元気クラブは「食と農を大切にする社会づくり」をめざし協同する千葉県の実産者グループで、現在11団体が参加しています。



簡単！魚とねぎの酒蒸し中華風

材料 (1人分)

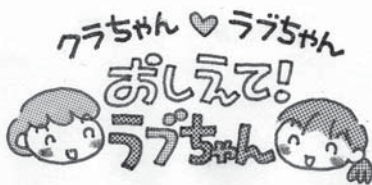
干物 (1枚 あじ、さんまなど種類を問わず。金目鯛なら最高!) 長ねぎの青い部分1本 酒 1/2カップ 水 1/2カップ (魚が半分隠れるくらい) 根生姜1片 ごま油適宜

作り方

①魚の干物は皮目を下にしてフライパンに敷きます。

- ②長ねぎの青い部分を小口切りにし、魚がかくれるくらい山に盛ります。
- ③酒と水を②の上から流しかけ、蓋をし火が通るまで蒸し焼きにします。
- ④すりおろすか千切りにした生姜とごま油をかけて召し上がれ!

\*ねぎは白い部分にビタミンC、カルシウム、カリウムなどを含み、緑の葉にはカロテン、ビタミンC、カルシウム、鉄が豊富で、酢と合わせて食べれば血液サラサラ効果が倍増します。



**おし酢 1本 使いきる!**

...の巻

マンガ ● さがいまなみ

